

石島会計メモ

平成30年8月号



中央区日本橋本石町 4-5-12
友泉本石町ビル 3階
石島公認会計士事務所
(03)3275-1311
発行責任者 石島慎二郎

なぜ倒産するのか

本屋で見つけた刺激的な表紙

『なぜ倒産』 『こうするより ほかなかったのか——』
まえがきには、成功事例は様々な要因が複雑に絡み合っ
て起きるので再現性は低いけれど、失敗事例は陥ると再現性は
高いため、学ぶ価値があるとあります。なるほど、しかも事
例が中小企業のもの限定とあり、手に取ってみました。

夏休みの時期ですし今回はその読書感想文(?)です。



急成長の落とし穴

会社が大きくなれば会社運営に必要な資金額が大きくなります。売上規模が
1,000 万円の会社と 10 億円の会社では、運営に必要な資金額は当然に変わってき
ます。図体が大きくなり、維持管理だけでも多額の資金を要するのです。

急成長して急激に規模が大きくなればなおさらです。取引規模の拡大に加え、投
資も必要となり、資金を銀行から借入すれば返済額もかさんでいきます。

本の事例には、大ヒット商品を生み出した会社の例がありました。爆発的に売れ
たので、需要に応えるため積極的な設備投資をします。規模が大きくなり投資もす
るので、必要資金はグングンと増加します。華やかな成長として注目も集めます。

しかし、その状態で、ブームが去る、次のヒット作が出ない、
するとどうなるでしょうか。売上が落ち込み、膨らんだ仕入代金
の支払いや設備投資借入の返済に追われ、一気に資金繰りが悪化、
倒産に至ります。これが急成長の落とし穴です。好調だからとい
って勢いにまかせた投資は危険なのです。浮かれずに、冷静に今
後の傾向を分析し、投資判断をしていかなければなりません。



今の事業形態は適切か

だからといって投資をせずにいれば事業は縮小してしまいます。いかに適切なタ
イミングで投資をするか、難しい判断ではあります。

事例に、カタログギフト用の革製品を卸す会社がありました。便利なカタログギフトが普及するとともに業績は向上しますが、売上に占める割合も高くなります。そしてカタログギフトのラインナップがモノからコト(体験型)に変化すると一転、モノの販売に頼る当該会社は赤字に転落してしまいます。なんとか新しい収益源を模索し投資するもなかなかうまくいかず、結局は倒産に至ってしまいました。

このように投資タイミングを逸しないためにも、現在の事業形態が将来も通じるか随時見直しが必要で、経営環境の変化には敏感でなければならないと考えさせられる事例でした。



ごまかしは逆効果

粉飾に溺れた事例も印象的でした。東京商工リサーチのデータによれば、2017年度において法令違反で倒産した件数は約200件(森友学園も含まれます)、そのうち粉飾の違反によるものが25件と、前年比1.5倍に増加しているそうです。企業の苦しい現状を映し出しているともいえるかもしれません。

本の事例でも、帳尻を合わせるために利益の水増し(粉飾)を行うのですが、一度だけ、少しだけ…がエスカレートし、それが発覚した際(ごまかしきれなくなったとき)には一気に信用を失い、倒産してしまいます。粉飾しても結局は一時しのぎであり、根本的な問題は解決されないばかりか、事例のように状況を悪化させることがあります。取り返しがつかなくなる前に、周囲に状況を正直に打ち明けて相談していくのが良策といえるでしょう。粉飾は麻薬のようなもの、「ダメ。ゼッタイ。」なのです。



倒産を回避するために

本書では、倒産に至った元社長の独白がありました。『経営者は局面を冷静に分析できる相談相手や協力者をそばに置くことも大切』というメッセージです。自分一人で客観的に物事を考えるのはなかなかできませんので、社内に参謀を置いたり外部の専門家に頼ったりすることが大切ということでした。

さらに、あとがきでは、最大の懸念は人口減少であり、国内市場縮小のスピードはこれから急速に進み、より激しくなるのは2020年のオリンピック後だろうとの予測がありました。景気が実際にどうなるかは誰にもわかりません。ただ、人口が減少していくことは確実であると言われています。

日本の人口が減っていく中で運転資金やリスク管理に気をつけながら、どのような事業戦略を描いていくのか。お悩みあれば、ぜひ石島会計にてお話しください。

(文章 石島慎二郎)



トラベラーSat o の諸国漫遊記 VOL.6

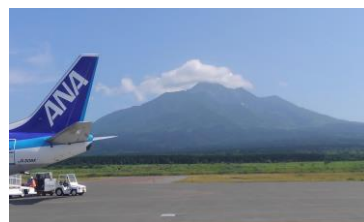
(文章:佐藤篤司)

皆さん、旅していますか〜? (^Q^)/ 順番を待ち切れず、諸国漫遊記第6弾をお送りしたいと思います。南国宮古島から一転、今回お届けするのは**利尻・礼文・稚内3泊4日**です。

8月でも気温20℃前後の北限の地で壮大な景観に包まれて、美食の限りを尽くしたい。そんなあなたにお勧めです。利尻島▲礼文島▲稚内の順に訪問し、それぞれ1泊ずつ泊ってきました。旅のテーマは最北の○○です。

利尻島

羽田空港から千歳空港経由利尻空港へ3時間30分で到着です。まずは最北の景観をお楽しみ下さい。周囲62キロ円形の島に島民5400人が暮らします。日本百名山に数えられる**1711mの利尻山**を擁する島です。時期を同じく利尻島に海を渡ってやってきたクマ、天皇皇后両陛下の初訪島と重なり、囂らずも数百人の警察官に守られての滞在となりました。



利尻島と言えば利尻山！！写真は逆さ利尻富士で有名な**姫沼**からの景観(左)と、白い恋人のパッケージデザインになっている**オタトマリ沼**からの景観(右)です。



そして利尻島と言えば**利尻昆布**。利尻昆布とは網走以北で獲れる昆布の総称で、クセのない香りと旨味の強さが特徴です。旬は夏でこの時期、昆布干しの景観が広がります(左写真)。



東京に流通するのは主に日高昆布で利尻昆布の殆どが京都の料亭に出荷されます。昆布の出汁は疲労回復と脳の活性化に有効です。美容効果もあるらしく、宿泊先のお風呂には3メートルにまで膨張した一本昆布がゆらめいていました。

トラベラーも漁師さんに頼んでちゃっかり分けて頂きました。右写真では身長180cm、ほぼ昆布体形の息子が一本昆布を両手に持っています。



また利尻島は**水**が美味しい！最北の日本の名水100選の**甘露泉水**が利尻山3合目にひっそりと湧いていました。水がうまいところは当然、食も充実しています。



最北でミシュラン星を取得した味楽の「**焦がし醤油ラーメン**」もここに 있습니다。ウニと昆布を使った「**愛す利尻山**」(スープも昆布)、亀一のプリプリの「**肉厚ホタテ**」、地元のソウルドリンク「**ミルピス**」と島のグルメが目白押しです。



利尻のウニは、バフンとムラサキの二種類。生きた**バフンウニ**は生臭さがなく、濃厚な甘さが口いっぱいに広がります。朝食時にオーナーがバケツ一杯のウニを持って登場・・・「獲ってきたから好きなだけ食べて」と言われ一同哑然でした。



礼文島



周囲 72 キロ、逆 3 角形の島。道は西側にしかありません。花の浮島と呼ばれ、標高 500m以上の山がないにも関わらず、高山植物が生い茂ります。毎日霧に包まれるため、夏でも気温が上がらない、風が強すぎて最北なのに雪が積もらない、何とも不思議な島です。

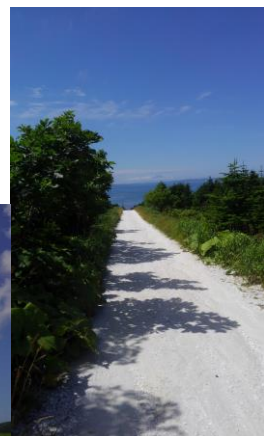
この日の宿泊は「花れぶん」、部屋とお風呂、そして食事処からは利尻山が望めます。早朝に花ガイドさんが**桃岩展望台**へお散歩に連れて行ってくれました。最北限の**スコトン岬**、桃の形をした**桃岩**、美しい**澄海岬**がこの島の景勝地です。



稚内



言わずと知れた日本最北端の地。礼文島は宗谷岬の少し南に位置します。43 キロ先にロシア領サハリンを望み、73 キロ離れた利尻島よりも近いのです。思わぬ蝦夷鹿との遭遇、どこまでも続く最北の白い道、2 万年前に形成された宗谷丘陵、最北の線路止り。稚内も最北端にふさわしい自然と景観を見せてくれました。



最北端に行きたくなりましたか？暑い夏！少しでも涼を感じて頂けたら、マイプレジャーです。次回も乞うご期待。それでは皆様、Bon Voyage! マタネ!(° - ^*)ノ

顧問先限定記事